

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ



令和3年7月発行
西部教育事務所

国語科授業づくり講座は、今年度も宿毛市立宿毛小学校を会場校に、「C読むこと」の授業づくりについて研究しました。【教材研究会（5月18日）、授業研究会（6月17日）】

学年：4学年
単元名：意図に応じた表し方の工夫について考えよう～地域の方に「新校舎のすてき」を伝えたい～
教材名：「広告を読みくらべよう」（東京書籍四上）
言語活動：地域の方に新校舎について伝えるために、意図に応じた表し方の工夫について説明する

授業者 4年A組担任
東 さおり 教諭



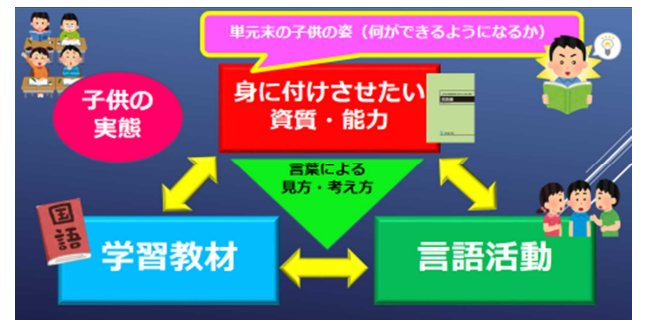
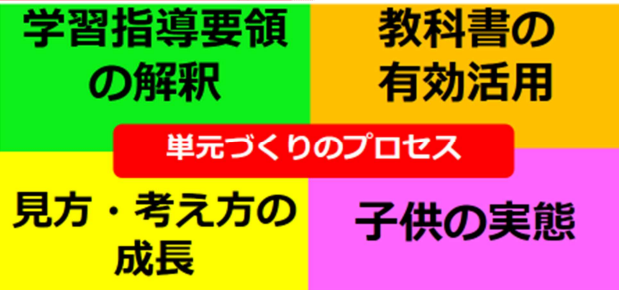
西部管内の
講座関係 HP

学習指導要領の解釈・教材の特徴・言語活動の設定

単元づくりの出発点は、学習指導要領に示されている「育成を目指す資質・能力」を、解説を基に解釈することです。目の前の子供たちはこれまでに何ができるようになっているのか、そして、これからの単元で何ができるようになるのかという視点で、子供の実態を捉え、学習指導要領に示されている指導事項を丁寧に読み解くことが大切です。そして、学習指導要領で示された資質・能力を何で、どのようにして育成するのが単元づくりであり、「何で」が手段に当たる教材です。教科書の内容を教えることが第一ではなく、学習指導要領に示されている資質・能力を育成するために教科書の教材を活用するという事です。学習指導要領に示されている指導事項は抽象的であるので、育成する資質・能力が身に付いた具体的な子供の姿を描くことが必要です。そして、育成を目指す資質・能力がよりよく身に付くようにどんな言葉に着目させ、どのような見方・考え方を働かせるのかを明確にし、単元に位置付けながら、単元を描くことが大切です。これは、どの教科でも同じですが、特に国語科では、子供たちが働かせる見方・考え方を育成する資質・能力、その資質・能力の育成に合った教材、言語活動の3つを関連付けることが大切です。



これまでにどんな資質・能力を身に付けていて、これからどんな資質・能力を身に付けるのか、学習過程に位置付けられた指導事項と教材と言語活動を関連付けて、単元末の子供の具体的な姿を明らかにしました。



ポイントは、「可視化」

講師による助言・講話より



国語科授業づくり講座 講師
前鎌倉女子大学教育学部准教授
松永 立志 先生

《国語科のもつ特性》

- ◆国語（言語）は、全ての学力の基盤である。
- ◆指導事項の抽象性が高い（指導内容が不明確）。
- ◆言葉による見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する。
- ◆「言語活動」を通して「指導事項」を指導する。

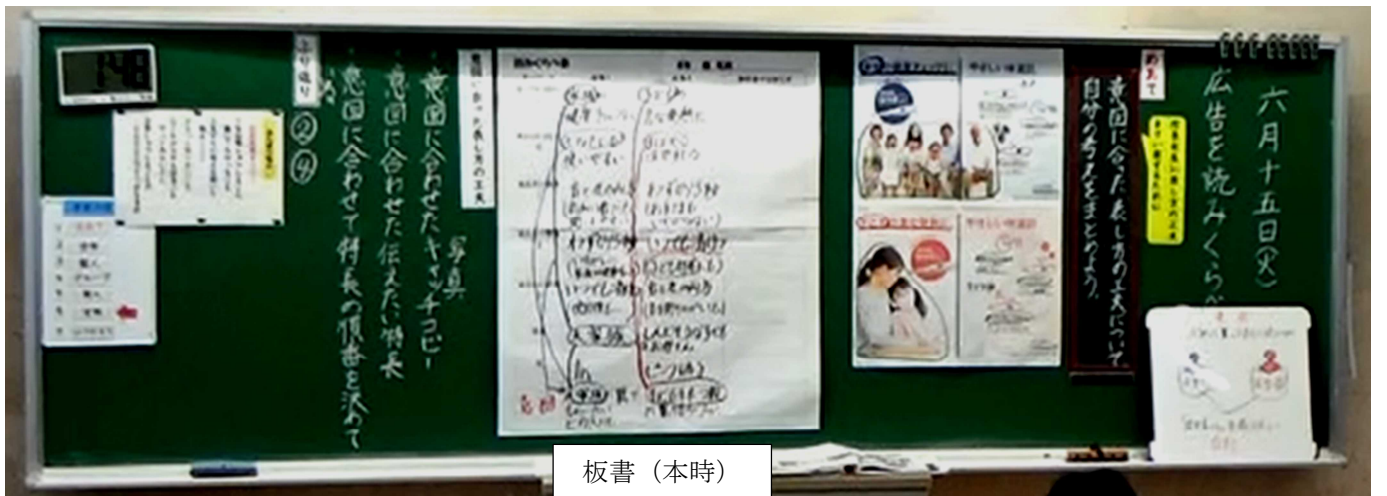
《言葉による見方・考え方の可視化》

- ◆A（事象・事物）とB（言葉）、A（言葉）とB（言葉）のように、Aの位置にあるものとBの位置にあるものを可視化する。
- 例「広告を読みくらべよう」（4年）
 - ・A [広告の中の言葉や絵] とB [説明文の中のキーワード（相手・メッセージ・特長等）]
 - ・A [広告1] とB [広告2]
- 例「ほけんだよりを読みくらべよう」（3年）
 - ・A [ほけんだよりの言葉や絵] とB [説明文の中のキーワード（伝えたいこと・事柄・工夫等）]
 - ・A [ほけんだより1] とB [ほけんだより2]
- 教材をつなげ、AとBを比較しやすくする工夫【※写真1】
- 観点を表に整理することでAとBを可視化する【※写真2】
- ◆言葉の意味、働き、使い方等に注目して、捉えたり（理解・考察）、問い直したり（比較・検討）して、言葉への自覚を高めたことを言葉によって理解し、言葉によって説明することによって可視化し、意味付ける。



【本時の目標】
「C読むこと」(1)オ 考えの形成
教科書の広告を読んで理解した意図に応じた表し方の工夫について、自分の考えをもつことができる。

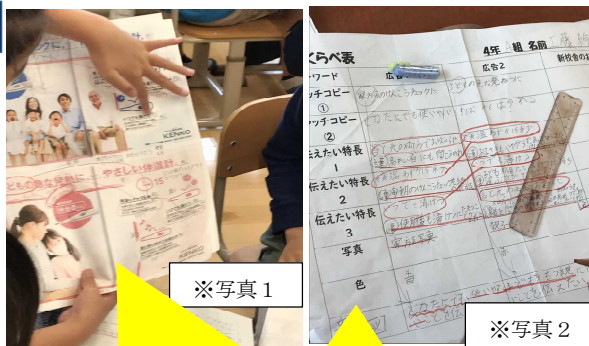
【B概ね満足できる状況】
○教科書の広告を読んで理解したことに基づいて、意図に応じた表し方の工夫について、自分の考えをもっている。
(例) キャッチコピーに、「家族の健康チェックに…」とあるから、家族みんなで使う人に向けた広告で、家族全員の写真を使っていたり、みんなに使いやすいことをアピールしたりしている。



板書（本時）

学習過程を意識した問題解決の学習

【学習指導要領解説P9】



※写真1

※写真2

子供たちは、松永先生に助言していただいた「同時に2つの広告が視野に入る資料」「マトリックス表」などを活用し、広告の意図とキャッチコピーや写真、商品の特長などとの関係性を基に自分の考えを形成していきました。

参会者の感想（授業研究会）

- ・国語科では、特に言葉にこだわるということ、また「見える化」することが大切だと改めて感じました。着目させる言葉や見方・考え方を働かせるためにどういった手立てを講じていくか、日々の授業から考えていかなければと思います。
- ・子供たちの学びを深めるために、教師が目指したい児童の姿を具体的にもち、問い返しやポイントをおさえていくことが大切だと感じました。
- ・付けたい力を身に付けさせるために、どのような言語活動を設定し、どのように見取るのかを教師が明確にもつことが大切であると感じました。
- ・学習の系統性を重視して、これまでに身に付けてきた資質・能力は何か、これから先の学年で身に付ける資質・能力は何かを踏まえて、付けたい力に合った言語活動を設定することが大事だと思いました。

教材研究会

授業研究会